

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

| | 前回(平成20年2月) | 今回(平成20年5月) |
|------|---------------------------------|--------------------------------|
| 景況判断 | 持ち直しの動きに足踏みがみられる | やや弱含んでいる |
| 観光 | おおむね横ばい | やや減少 |
| 個人消費 | やや弱含み | 弱含んでいる |
| 住宅建設 | 大幅に減少 | 増加 |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている | 依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きに足踏みがみられる |

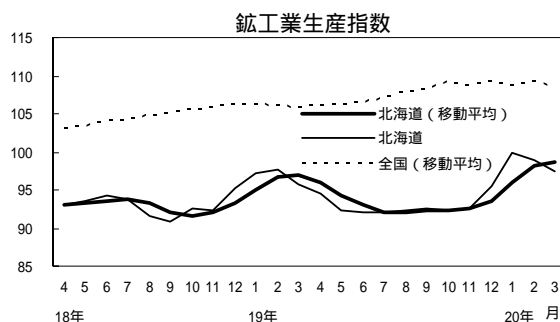
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産及び水産業の水揚量は前年を上回っている。

生乳生産は、牛乳等向けは減少したが、乳製品向けが増加したため、総量では963,739tと前年比3.9%増となった。水産業(主要8港)は、ほっけ、するめいかが前年を上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

食料品・たばこは、精米、価格引上げ前の駆け込み需要があったビール・発泡酒が好調だったことから、増加している。パルプ・紙は、新聞巻取紙の受注が好調だったことから、増加している。電気機械は、春モデルの携帯電話や携帯電話向け水晶振動子の受注が好調だったことから、増加している。窯業・土石は、セメントが需要減などにより受注が落ち込んだこともあり、おおむね横ばいとなっている。金属製品は、鉄骨は受注減から減少したものの、公共投資向けの橋りょうが好調だったことから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | 在庫 |
|---------|--------------|-------------|-----------|-----------|-----------|
| | | 10~12 月期 | 1~3 月期 | 1~3 月期 | 1~3 月期 |
| 食料品・たばこ | 26.5 | 4.0 | 4.7 | 8.3 | 0.9 |
| パルプ・紙 | 12.1 | 2.5 | 2.4 | 0.7 | 1.1 |
| 電気機械 | 9.5 | 0.8 | 3.4 | 6.3 | 5.1 |
| 窯業・土石 | 9.0 | 4.6 | 0.7 | 5.1 | 2.4 |
| 金属製品 | 9.0 | 2.8 | 12.4 | 15.7 | 3.1 |
| 鉱工業 | 100.0 | 1.4 | 5.7 | 7.5 | 1.0 |

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

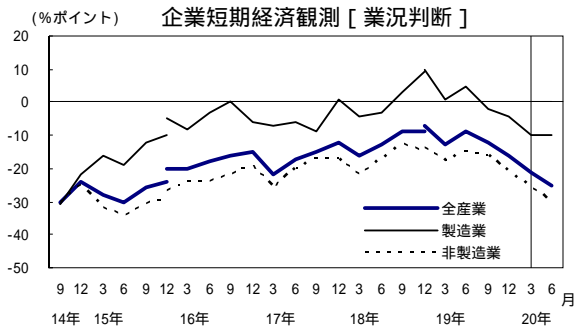
(備考) 1. 季節調整値。北海道の最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

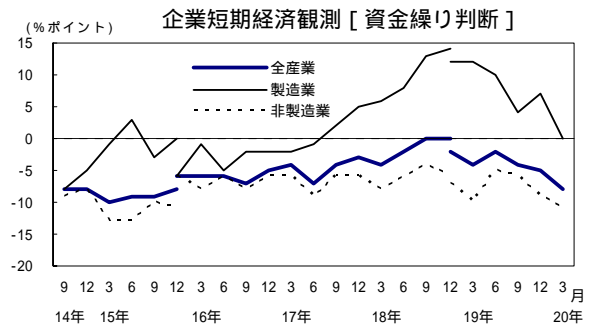
3. 北海道は12年基準、全国は17年基準。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

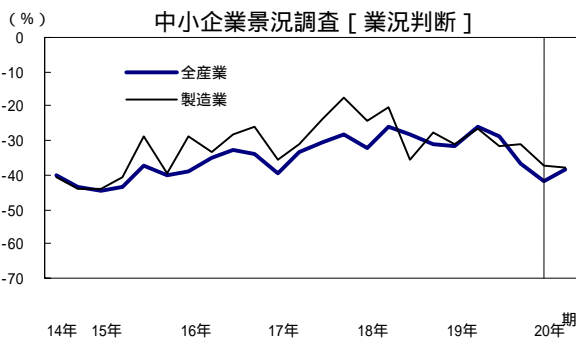
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

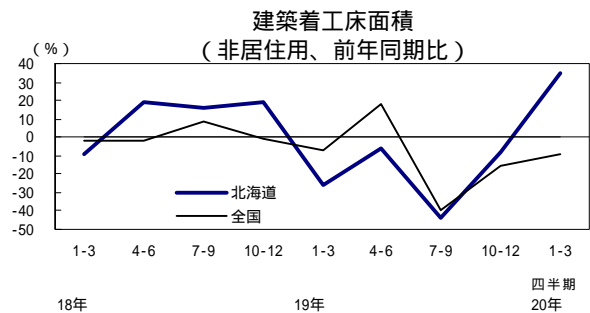
景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]
「土地取引や建物の建築件数の減少など、状況が悪化している(司法書士)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

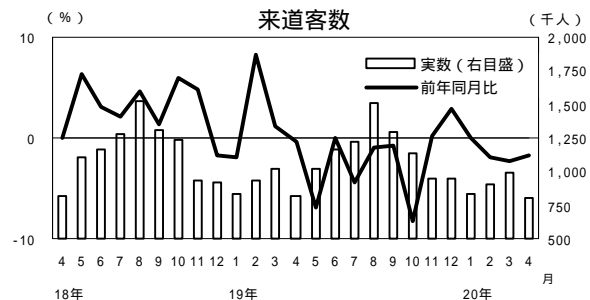
| | (前年度比、%) | |
|------|------------|--------|
| | 19年度実績見込み | 20年度見画 |
| 全産業 | 11.9(3.4) | 1.8 |
| 製造業 | 33.9(7.4) | 4.8 |
| 非製造業 | 2.0(1.0) | 0.0 |

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はやや減少している。

来道客数は、2月は雪まつりや流氷観光が盛況だったが、天候不順も影響し、航空機の欠航も多くみられたことから前年を下回った。3月は、航空機会社の機材小型化に伴う提供座席数の減少も影響し、前年を下回った。4月についても、機材小型化の影響に加え、ゴールデンウィークの曜日並びが悪く、観光客の入り込みが伸びなかったこともあり、前年を下回った。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

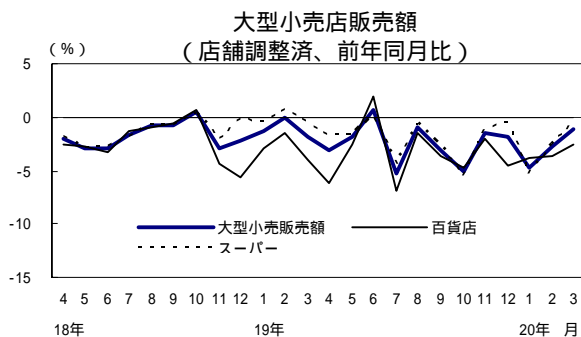
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売り、セールは好調だったものの、降雪が続き客足が伸びず、春物商材が不調で前年を下回った。2月は、バレンタイン商戦や雪まつり期間の集客は好調だったが、低温の日が続いたため春物商材が不調で、前年を下回った。3月は、気温が上がり、ワンピース、カットソーなどの春物衣料、春物のバッグなど身の回り品が伸び、飲食料品も伸びたが、ブランド物などの高額商品が伸び悩み、9か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、4月の売上高は、札幌地区で前年同月比4.8%減、札幌を除く北海道地区で同9.7%減となっている。

スーパーは、肉や野菜などの飲食料品の動きは堅調だったが、天候の影響もあり、衣料品、身の回り品がふるわず、家庭用品の売行きも不調だったため、全体としては前年を下回った。

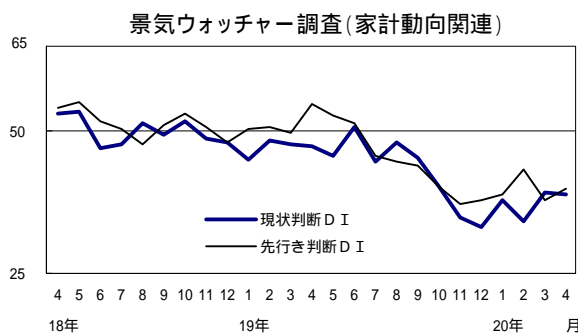
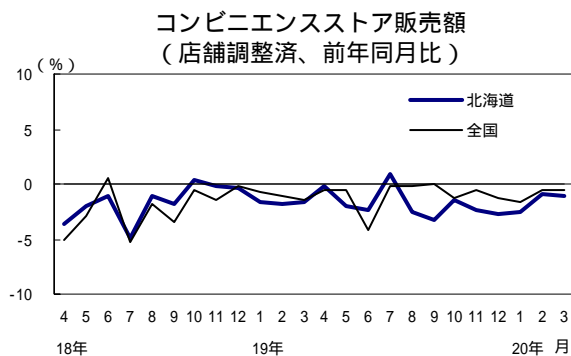
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「売上高が好調だが、1人当たりの平均買上点数は若干低下傾向にある。野菜や精肉の相場高や、一般食品の値上げ等により、客の消費金額は伸びているが、価格に対する先行き不安からの仮需要とも感じられる(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



| | (前年同期比、%) | | | |
|----------|-----------|------|--------|---------|
| | 19年4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 20年1-3月 |
| 大型小売店 | 1.5 | 3.1 | 2.7 | 2.9 |
| 百貨店 | 2.3 | 4.2 | 3.9 | 3.3 |
| スーパー | 1.1 | 2.5 | 2.2 | 2.8 |
| コンビニ | 1.6 | 1.7 | 2.2 | 1.5 |
| 景気ウォッチャー | 47.9 | 45.9 | 36.2 | 37.1 |

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

